

新春対談

子育て世帯と市長が語る

伊賀市の未来

対談者 リー・アントワーヌさん
岡 敬子さん
大橋 律子さん

新年明けましておめでとうございます。今回の特集は、新春企画として、子育て世帯の移住者と岡本市長の対談をお届けします。

お越しいただいたのは、市内在住のリー・アントワーヌさん、岡敬子さんご夫妻と、大橋律子さん。令和5年11月にオープンしたJR新堂駅前の複合施設「SHINDO YARDS」図書館「BOOKMARK STORAGE」で、移住のきっかけや伊賀での子育てについて語っていただきました。（本文中敬称略）



(左から) リーさん、岡さん、大橋さん

移住のきっかけ

市長 初めまして。本日はよろしくお願ひします。

お二組とも令和3年に伊賀市に移住されたんですね。それぞれの移住のきっかけはどんなものだったんですか。

岡 私たちはもともとベルギーに住んでいたのですが、私の母が病気になるので急ぎよ日本に帰国することになったのがきっかけでした。

市長 岡さんのご実家は南伊勢町でしたよね。南伊勢も自然豊かですごくいいところですが、なぜ伊賀を選んだんですか。

岡 実家ではちょっと田舎すぎて夫の仕事が見つからないかなというところで、はじめは二人とも好きな京都で家を探していましたが、なかなかいい物件が見つからなくて。

ですが帰国して初めてのお出かけで伊賀を訪れて、日本昔ばなしに出てきそうな里山の風景や、城下町の雰囲気のあるお家も多いのが印象的で、伊賀のことを調べ始めました。伊賀から京都まで一時間ちょっとで行けるし、母のことも心配だったので、京都より実家に近い伊賀がどんどん良く思えてきて、いい物件にも出会えたので移住を決めました。

市長 京都よりも家の価格はリーズナブルですし、自然豊かでありながら都会へのアクセスがよいのは伊賀の強みですね。

大橋さんはお隣の亀山市から移住されたということですが、どんなことがきっかけでしたか。

大橋 夫の仕事の都合と、子どもたち合った小学校に通わせたいことがきっかけですね。亀山では大きい小学校に通っていましたが、1学年1クラスのほうがのびのび学べるし、夫の仕事もこつちやし、いい家もあったし、「引っ越そうや!」という感じで引っ越してきました。

市長 いざ引っ越すとすると、家族の間でいろいろ話し合いもあったのでは。

大橋 それが、初めて家を見に行った時に子どもたちが「ここ僕の部屋!」「こっちは私の部屋!」って、いっぺんに気に入ってしまっって、その日のうちに書類書いて印鑑押ししました(笑)

市長 早いですね。それだけ魅力的な場所に思っていただけということですね。

大橋 それはもう。お米もおいしいし、子どもたちは給食でおいしい伊

賀牛もいただいていますし、すごくいいなって思っています。子どもたちも毎日楽し過ぎるみたいで、ご近所さんにもよくしていただいで、本当にありがたいです。



市長 リーさんはベルギーのご出身で、今は伊賀でワッフル屋さんをされているんですよ。

リー ベルギーでは映画の吹き替えの仕事をしていました。はじめは日本でも映画の仕事がたくて東京に住むことも考えていましたが、日本に来たときに違う風が吹いて、綿毛のように風に飛ばされながら生きています。

市長 でも、いいところに着地したと思いますよ。伊賀での暮らしはどうですか。

リー 伊賀は都会の喧騒から離れた静かさもありながら、必要なものは手に入りますし、お店をしているので人の温かさもすごく感じます。

岡 この間もご飯を食べに行ったら「ワッフル屋さん」と声をかけてくれました。

市長 私も何度かワッフルをいただきましたが、おいしかったですよ。

リー・岡 ありがとうございます。

伊賀での子育て

市長 市では子育て施策を大きな柱の一つとして、市立小中学校の給食無償化や、中学生までの医療費の窓口負担無料化などに取り組んでいます。子育て世帯のお二組はごう感じていますか。

大橋 給食費の無償化はめちゃくちゃありがたいです。子どもたちは給食でも必ずおかわりするくらい普段からよく食べるので、無償化になって本当に助かっています。

リー 子どもの病気のことで医療費

て、保育園でもインターナショナルなバックグラウンドの子どもたちが溶け込んでいる様子や、仲良く登下校をする小学生の姿を見て、そんな不安はなくなりました。

市長 多様な思いや考え方、生き方をしている人がいますよね。そんな多様性の中で誰もが暮らしやすいまちにしていくことも一つの柱として取り組んでいます。大橋さんのお子さんの小学校でも、外国にルーツのある友達は多いのではないのでしょうか。

を心配しなくていいというのは大きな安心ですね。

市長 反対に「ここはちょっとな」と思うことはありませんか。

岡 今1歳の子どもがいますが、もう1人欲しいなと考えています。ただ市のシステムでは、2人目を産んで育児休暇を3カ月以上取得した場合、2歳までの上の子は保育園を退園させられてしまうんですよ。

市長 いわゆる育児退園ですね。でもこれは令和6年度からなくすようにします。

岡 そうなんですか、よかった。私は今36歳なので、上の子が3歳になつてからだと妊娠できるか、また出産のリスクも高まることも考えるとなかなか難しいなと思うところがありました。

市長 やはり実際にお子さんを育てる身になって考えていくということが大事ですよ。

大橋 子どもたちのお稽古事がある日に、私や夫は仕事で送迎が難しい場合もあって、そういうときに誰かが助けてくれるようなシステムがあればいいなと思います。

にもたくさんいてみんなで頑張っている。

市長 いろんな国の人たちが一つの場所に住んで、いろんな世界が見えていくのは、子どもたちにとっても地域にとってもすごくいいことだと思います。

歴史と文化が薫る にぎわいのまちへ

市長 この会場「BOOKMARK STORAGE」は市の「いがまち図書室」とDMG森精機(株)さんのスペースに分かれているんですけど、本のラインナップがすごくいいんですよ。親子で来ても楽しいと思いますよ。ぜひ後で回ってください。



大橋 たくさんいますね。子どもたちは大山田のバスケットボールチームに所属しているんですけど、そこ



▲図書館を見学

市長 共働きのご家庭は多いですし、どうしても都合がつかないことはありますよね。市ではそういった場合に援助を受けることができる「ファミリースポーツセンター事業(ファミサポ)」を行っています。他にもいろんな取り組みをしていますが、制度をつくるだけでなく市民の皆さんにそれを利用してもらう、いろんな声を聞かせていただいて初めて完成しますから、しっかりと広報していきたいと思っています。



岡 私たちのような移住者の場合はお互いの両親が近くにいないので、すぐに頼れる人がいなくて。ファミサポには登録していて、本当にどうしても2人が見れないときにお願

令和5年伊賀市 10大(重大)ニュース

- 3月○川上ダム建設事業が完了、4月から管理運用を開始
- 4月○市立小中学校の給食無償化を開始
 - 依那古小・比自岐小・神戸小を統合し「上野南小学校」が開校
 - 大山田と島ヶ原の両温泉施設を民営化
- 5月○民法改正後初の「18歳での成人式」を実施
- 8月○デマンド型予約式の行政バス「島ヶ原ぐるり号」の実証運行が始まる
- 9月○医療費の窓口負担の無料化を中学生まで拡大
- 10月○「上野天神祭」4年ぶりの通常開催で19万5千人の出入
 - 伊賀生まれ、伊賀育ちの伊賀牛が初出荷
- 11月○公民連携でDMG森精機(株)が「SHINDO YARDS」をオープン



▲「SHINDO YARDS」に移転した伊賀支所

多文化共生のまち

市長 伊賀市は外国人住民が人口の6.9%を占めていて、多文化共生社会の推進も力を入れているので、お子さんのびのび育ってほしいだけではないかと思えます。

岡 ベルギーは夫婦別姓なので、夫はリー、私は岡なのですが、子どもの名字は岡で、外国人だからって決められたりしないかと不安はありました。ですが伊賀に引っ越してき



辰年 生まれの皆さんに 今年の抱負を伺いました

※住所・氏名・生まれ年と、今年の抱負を掲載しています。

仕事も家庭も充実した
1年にしたい



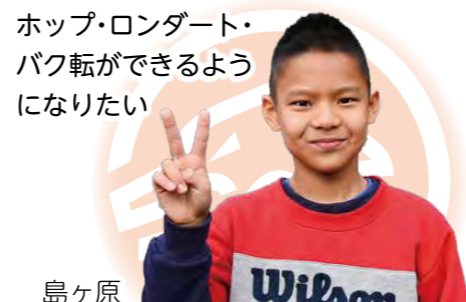
千戸
福山 輝幸さん
(昭和 63 [1988] 年生まれ)

特定技能の在留資格を取って、日本語能力試験のN3も合格したい



小田町
ダイ ミン ズオンさん
(平成 12 [2000] 年生まれ)

ホップ・ロンダート・バク転ができるようになりたい



島ヶ原
井村 皆喜さん
(平成 24 [2012] 年生まれ)

一人でも多くの人を
笑顔にしたい



高尾
松田 龍治さん
(昭和 51 [1976] 年生まれ)

ずっと夢だったカフェを
オープンしたい



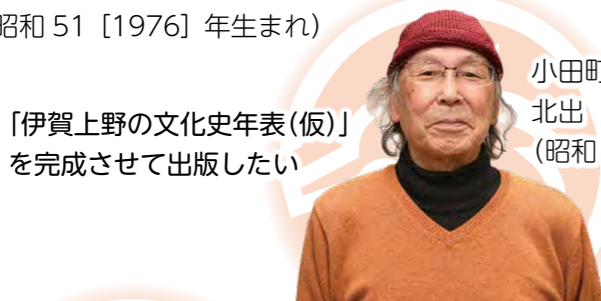
玉瀧
竹島 博子さん
(昭和 39 [1964] 年生まれ)

世界平和を願いながら
家族みんなで健康
に暮らしたい



比自岐
辻 貴美子さん
(昭和 27 [1952] 年生まれ)

「伊賀上野の文化史年表(仮)」
を完成させて出版したい



小田町
北出 楯夫さん
(昭和 15 [1940] 年生まれ)

高校の部活で出会って 56 年
これからもみんなで集まって
愉しく語り合える仲間でいたい



(昭和 27 [1952] 年生まれ)

家族に感謝しながら
毎日元気に過ごしたい



下友田
川合 きりこさん
(昭和 3 [1928] 年生まれ)

ご協力いただき、ありがとうございました。皆さんにとって、実り多き1年となりますように…

また令和6年には忍者体験施設、令和7年から8年にかけて旧上野市庁舎をリノベーションした図書館やホテルなどが入る複合施設ができれば、すべからず楽しみになってください。

大橋 亀山や東京の友人が来て、もうすぐ楽しいと思います。

岡 忍者体験施設のこと、ベルギーの家族にも伝えてあって、すごく楽しみにしています。

市長 伊賀の歴史や文化は先人からいただいた財産ですから、「私は伊賀で暮らしています」と誇らしく言えるまちにしたいと思っています。松尾芭蕉のふるさとなので、子どもたちは夏休みに必ず俳句を作る宿題があったりして、少し大変な思いをしているかもしれませんね。

大橋 それがうちの子どもたちはすごく楽しんでるんです。星がきれいだったり、いい風が吹いていたら「俳句作る」って。

市長 それはすごいですね。子どもの頃はまた作らなげや、嫌だなと思うけど、大人になって、言葉に対する感性や季節感が身に付いていることに気づくんですよ。だから小さいときにいろんな感性を豊かにすることはすごく大切だと思います。



そんな感性を育む場として、市では美術博物館を建設準備中です。教育は金銭だけでは効果が計れませんが、なくてはならないものです。将来の子どものためにしっかりとした整備や投資をして頑張っていきたいと思います。

最後に、市にこういふことをしてほしいと思うことはありませんか。

リー ヨーロッパの街にはメインストリートがあって、週末には小さい子どもからお年寄りまでみんながそこに集まったり、ずっとそこでお喋りできるようなテラスなどの居場所があります。伊賀もぜひにぎわいをテーマに「尽力いただけると嬉しいです」。



市長 ところで今日は令和6年の漢字を書いてきました。「昇」という字です。令和6年は辰年ですから、市民の皆さんも伊賀市も昇り竜の勢いになるように願いを込めてこの字を書きました。

「昇り竜」の一年に

市長 新しい図書館は居場所を作る図書館ですからぜひ楽しみにしてください。また、まちなかのにぎわいだけでなく、子育て施策はもちろん、行政サービスのオンライン化や公共交通の利用促進など、皆さんの暮らしがより便利で豊かになるよう、さまざまな面で取り組んでいきたいと思っています。



▲館内併設カフェのコーヒーで一服。対談後も会話が尽きない様子でした。

今日はお二組からいろいろなお話を伺いましたが、皆さんには伊賀にいろんな考え方や思い、暮らし方を吹き込んでもらっていることがわかりました。それらと伊賀が持っている可能性を融合してより良い地域にしていけたらと思います。今日はありがとうございました。

リー・岡・大橋
ありがとうございました。